

奉政報告第百八拾六號

(本報、伊豆の島、神奈川を含む)

明治三十九年三月七日 奉天軍政官小山秋作

關東總督府參謀長落合豐三郎

奉天於テル經濟界恐慌ノ救濟

奉天に於ケル經濟界恐慌ノ状況ハ奉政報告第一八二
号ヲ以テ報告シタル後 今尙赤タ全ノ鎮都トニ至ラ
ス 銀票不表れり者中 信用尤モ堅固ナル公議局(公
議會、銀行)ノ如キモ名義引流半錢票引換請求者
ノ有少ウセフリ 一般人心殊々向々タルニ奉天財政局
為務局在右銀號、書面之種手續觀之シナテス
却テ各鋪舗、霞浦ウ甚幸之カ如キノ状アリ因テ

公議商局、資本之タニ東天ヶ嶺高會（公議會ト同一
 ノモノ）ハ二月三日ラ以テ左、顧書并て該商局資金目
 錄ヲ呈出レ該商局、危急救済ノ儀ヲ熟求セリ
 公議商局證ニテ稟ス故會ハ光緒ニ十六年（明治
 三十三年）秋、兵燹ノ後、於テ省城ノ市壘、凋敝レ
 テ錢法通セサルラ以テ前軍督部堂増、出資提倡
 ラ經テ株券ヲ募集シ、茲、錢舗公議商局ナル者ラ
 開設レ花、諭ラ奉シテ、錢票ヲ發リ、市場ニ流通ス
 ルコト、ナリ。本年ニ至リ、全局内存スル所、財產即チ
 資本金、積立金、當鋪^{当铺}抵畜貯付金、儲存雜
 貨、家私價格等合計、錢伍百參拾万兩文、銀伍
 萬伍千兩解アリニシテ、以テ錢票登り總額四千八
 十萬吊文ラ支拂フ、コトセハ尙差引残金錢五拾万

币文銀伍万五千餘兩り得マレ然ニ今同舎舎
 豊翁、錢票引換、行迫レ繕ヒテ支払ラ猶止スルヤ
 売民ハ喧嘩群ラサレシ全局ニ至リ銅票ヲ引換ヘ其
 勢一時ノ急ラ故ヒ難キノ處アリ茲、仰ヒテ恩施高
 賴ク體恤スルヲラ恭り敵手一同冒昧ラ揣ラス現時
 ノ窮状ソ且陳シ特別、御詮議ヲ以テ正金銀行
 借款セシメ以テ公議為尙、融通セシム、蒙承入但
 其金額ハ伍萬圓乃ニ貳拾万圓トシ放済ノ用ニ資
 し以テ錢票ヲ回収致候、又愈々借款、尙在ニ隨
 時借用証書ヲ納付シ五個月ヲ以テ期限トシテ
 元利共返_タシテ借款ヲ専せ放済候別紙全局
 内況時、財產及ヒ銅票券り高以相當ラ付シ
 在右に呈ス

右軍政官特別、御詮諭ヲ以テ借款ヲ許容急需て
應セシム様致此段及察候也

支繕三十一年二月九日奉天公議商會謹至
公議商局謹シテ啟向、財產貿債及贏餘ヲ左記
ス

財產、部

償付金

儲藏雜穀雜貨價格

家屋四所買入當時價格

當鋪於ナル抵當償付金

資本金

積立金

一錢百五十萬吊文

一錢四十五萬吊文

一錢四十五萬吊文

一錢五萬兩餘

一銀五千兩

計
錢
伍
萬
伍
千
兩

負債ノ部

一錢四百八拾萬吊文

錢票發行高

計 錢四百八拾萬吊文

以上財產負債毛引殘金銀伍萬伍千兩 錢五拾萬

吊文

光緒三十二年二月九日 奉天公議商局

右、願意ヲ許若スルノ可否ハ公議商局ノ運命ヲ自然
放任シタル結果矣、之カ枚濟之助力シテ難困ヲ通過
セレタタル結果トカ我國ニ及ホスベキ影響如何、因テ
解決スヘキ問題ナルカ此問題ヲ考究スルニ先タナ一言
不ベキハ該商局ノ立脚地是レナリ元來公議商局ノル
モノハ公議商局會員ノ開辦セんモノニシテ其資本家名
一千餘戶、奉天埠內右種商鋪ノ主ナル者ヲ網羅スルラ

以テ該商局ノ休戚ハ奉天商家全般ノ休戚ト謂フヲ得
 フレ而シテ其異名同體タル公議商會ハ我軍奉天
 在領以來常ニ熱心ナル好意ヲ表シ我軍ノ為メ始
 便直テ圈リシノミナラス在領ノ當初拾萬圓ノ犒兵費
 ラ獻納レタルハ即チ該商局ノ出資者ニ外ナラス然ニ
 公議商會ハ將軍增祺、左職中ニ於ケル設立ニ係り當
 國ノ弊扼トシテ前後者ノ知人ハ其善惡を拘シテ後任
 者之ヲ排斥シテ其位置其職ヲ自己ノ知人ニ与ヘ其
 利ヲ擅ニセント故ニルヨリ趙爾巽赴任以来殊ニ財政局
 総裁史念祖ノロキハ尤モ同會ヲ疾視入ルノ觀アリ既ニ
 過般モ公議商會ト全然同一性質ナル三商務總會ル
 者ヲ新立シ公議商會ノ事業ヲ奪テ商權ヲ握ラシト計
 リシカ各商人、結合ハ意外ニ輩固ニシテ志ク公議商

會) 繼續ラ便トレ官設商會ニ左祖スルエノナキ力為
 ナ該總會ハ徒ラニ門牌ヲ掲テ空屋ノ留守番ヲ置クニ
 止マリ居ル力如キ亦以テ史等一派ノ心事ヲ證スルニ
 レリ之ヲ要スルニ公議商會ハ奉天商界ノ輿望ヲ負フ
 力為ニ当地ニ於ん財政官吏、嫉忌排濟ヲ受ケ其嫉
 忌排濟ノ漸ク加ハニ從ヒ我軍衛ニ叩頭救濟ヲ乞フ
 ノ念愈々厚キハ同商會ノ現勢ナリ

上述ノ情勢ニ基キ該商會ノ運命命ヲ自然ニ投任シテ
 ル結果力我國ニ及ホスヘキ景觀者ヲ推考スルニ大ノ如キ
 不利ヲ招ク、震ナキ能ハス
 一、公議商會目下ノ恐慌ノ為スニ遂ニ閉鎖、否運ニ陷ラ
 八年六月役ノ石振ヲ惹起し以般的資本ニ弱ムルニ
 並為高民の商況恢復甚、時極シ待ツ能ハス恐れ、因

社ラヌルニヨレ

(三) 公議商局遂閉鎖スルニヨラハ奉天商界金融、實權
ハ全ノ財政局官吏官銀行即チ史某一派頗冥莫
掌握ニ帰シ吾人宿望タル日清恨同ノ經營ハ彼等
頗冥派ニ妨ナラシテ愈々安樂ノ便ヲ矢フヘク更惡
ルヘキハ彼等ニシテ金融操閥ヲ扼シハ自信增長ノ
結果我ニ抗スルノ風ヲ生シ遂ニ運用ノ實力ニ弱サバ
昨今漸ノ風聞アル彼ノ機慧尤獨乙人等故機ニ來
シテ運動、歩ラ進ノ一派貪官力其黨龐中ニ入ラ
シモ知ルヘカラス事若シ茲ニヨラハ海內金融ニ對
日清協同ノ經營ハ全然絕望ニ帰セサルヲ得サルベ

シ

(三) 公議商會ハ終始我軍ニ忠勤セリ然ニ經営ニ係

ル該商局ノ危急、際レ錢之ヲ傍観シテ一臂ノ助
力ヲ吝ム。於テハ其資本家々ル主ナル商氣一千餘
アヽ向端、至天商民全體ノ人心ハ是ヨリ離背、端
ヲ啓キ我國力公私事業ノ施設上、蒙フル不利
不便ハ殆ト數ルニ勝エサルモノアラ。

(四)財政局が各錢鋪、非運^ラ奇貨トシ其發行セん錢
票、外銀兩銀元^ニ對スル二種ノ銀票ヲ發行シ
トし豫^テ上海ニ^テ印刷^ル一部昨今^テ已^ニ到着セ
リ然ルニ今公議會商局自ラ危急^ラ訴ヘタルニ我
レ君レ指テ顧^ミサランカ錢鋪惠^ク倒産^シ其錢票
ニ代ルモノ、官銀行、新票ニシテ勢力我軍票及之代
ルメキ^テ金銀行手形^ノ上、累償^シ甚流通^ラ妨^ルヤ明
ニシテ假令我^ニ對抗^{スル}ノ力ナレトスルモノ打擊^ノ

角次ハ恩半ニ過ル者アラレ

更：該商局ノ救済ノ助カシテ立事ニ就闇ラ西過セ
シメタルノ結果カ我國ニ及ホスヘキ景況ヲ考フルニ在ノ

如レ

(一) 公議高商ニレテ參事ニ雜用ニ過セハ奉天經渦
卑，心慌ハ漸，鉄軌ノ歸レ一般商況モ是ヨリ復
興スヘク目下過渡ノ時機ニ至ル我北滿商民ニ取
リテハ最モ必要ノ保護タルヘシ

(二) 公議高商ノ恢復ハ民設金融機関，勝利ナリ此
勝利ハ實：我國ノ助カシテ得ラセタリトセハ
其感恩謝惠ノ念ハ民設金融機関ラレテ夫ラス
諸々ノ我勢力ノ範圍内ニ得セムヘク假令官
邊ニ於ケン協同經營ラ賓りせん追モ事實上ニ於

ケル日清商ノ間ニ銀同種字ノ產地ハ是ヨリ華成
スルヲ得テシ

(三) 奉天高野ノ休戚ニ關スル公議局ノ危急ハ清國
支那ニ見捨テラレテ我支那ニ放ハシエリトセハ奉天
商界殊々需サシ銅錫等、我軍需ニ對スル好感ハ
益、厚キラ加フルト全時、彼銀需ニ對スル悪感愈
々深キラ加フルハ少シ、憤歎ナリ。且此放漏、實以
我正金銀行ニ由ル。該銀行ト當地商家トノ間
ニ薄厚ナル關係ヲ生レ、因銀行ハ當地商家ノ金
庫トナルヘキラ以テ金融上不破、進益アル、ミナズ銅
中該銀行、其代之三千余形ノ高金ニ及キス便直ハ治ト
代放漏ニ依リ計、其勝エサルモノアラレ

(四) 今議商局ニテ差レ財政局ノ官榷官銀ハ、詭計、

反抗し自立スルヲ得ハ漸次商局収得、錢票ヲ同
收し内都リ郵便ヲルト甚く頻度、運賃ヲ仰スル
等我意シ事セシム亦雅キニ犯サレマシ
以上批考ノ結果ニ依リげ際、官議商局、危急ヲ救済
スルヘ目下ノ一要務ナリト認定シタル候。三月四日即チ
公議商局久首等カ哀訴ニ奉リタル日、於テ正金銀
行李手渡如所貰ト總額ノ上差當り同日引銅十
万圓ラセシテ商局拉滿、資ニ供スルコトニ決シ商ホ
不足アラト更ニ若干、償付ラガセシムトシ尙ホ
一般人或ミ対レ左記、告示ラ奉るんドトセシ
訪得富城民人連目公議商局ニ首領シ擁護
換鴻頤ル物情ヲ鄭カセリ本軍政官者即貟
ラ派シ該局ニお達シ却実核査をシカガ後旋タ

旗久ノ通脣詳査ラ經度移ルニ於高ハ謹候
 商ノ股ヲ集シ開設ゼルニシテ銀銭并ノ耐短セス
 拙至若款ノ存項外掛鳴附抵スルノ數ヲ陳年高
 ホ盈餘アリ畢竟一時緩急ヲ滿ス兼子未だノ
 家施欠ノ罪アルニ係ル等、情亦事查らんニ於高
 既ニ謹慎共公集股既夕リ之あ危典廢ハ地方
 ノ高官ト施メテ開セアリ今方危也ノ如キヲ見テ
 之ヲ校ハスレハ恐ヲクハ民情惟擾高運頗荒ニラ
 政シ害ヲ地方ニあスコト言フニ勝平木カニス此宣ニ
 商舗ノ禍ニシテ上マニヤ正金鉢カラニモ賈款レ浮々
 満さしムラ除クノ外合ニ五カニ出示曉諭スベシ此カ為
 ノニ國体、民商ニ示仰シ一體ニシテ奉セシム尔等款
 ラ生シ証ウ紙レ市厘リ碍クルヲ改ニラ得ルノ母レ

商局、憑帖、仍モ應ニ帶ニ熙シ融り候スア
該局主亦須シテ認真開付以テ大信リ取ニズヘ
シ其名、憲寧シテ孝フ母レ切々特示
右、又連、新テハ該商局商金ハ向通一般商事ノ
代回、對シル好為核ハ法國友誼、對シル而為恩情ト
反比例、ソニ得シキ道長ツアセカヒニ右十萬圓
金、何れ決定セント同时ニ該商局ヨリ上海ヘ
申来ハセシ十万圓モ別看セシム、餘者、既換ニ詩ス
ル學術の景子、子立テ急急ス陸、該局専全、見达ハ
充今ニ立テタルソニテ、同姓子愁眉ツア開キ名ニ首會
首等文、事有、上、詩意ヲ考セリ、考之找核、滿
聞カハ綱民、ハ、心シテ其取付、見合、友誼、紙
望シテ端部、御りおう、備上ス

月日	銅種	圓鈔及手寫	銀	銅	銅
二月廿八日	八千二百三十八圓	十三兩二錢	二百五十八吊二千文		
三月一日	八千三百八十四圓	十	二千七十一吊九百文		
全月二百	七千二元八十角四丁銅	十二兩六錢六分	二萬零一吊二千文		
全月三日	七千零八十五圓二千六	十二兩五錢六分	二萬零九十四吊八百文		
全月四日	九千零元七百零九	十七兩四錢六分	一百八十五吊二百文		
全月五日	一万七千三百五十九圓	二千三百五十九	一百七十五吊五百文		
全月六日	一万三千七百圓	二千九十九兩	九十九吊	十六文	
計	七万一千五十八角九十銅	三萬六千五百四十兩	一千四百六十九吊八百文		
軍需撥款	七萬五千九千九十九銅	五百四十八十銅	二百四十九		
以上總計軍票	七万五千九十九圓	八拾			

洋文書類二合

1756

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>